

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1~P3 新役員としての抱負 [執行理事]

P4~P8 令和6年度 日臨技有功賞・日臨技貢献賞・地域貢献賞 受賞コメント

P8 都道府県技師会 各地での取り組み (宮城県編)

P9 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介

新役員としての抱負 [執行理事]

専務理事 深澤 恵治

この度、横地会長をはじめとする素晴らしい理事会執行体制（以下チーム）の専務理事として、大役を仰せつかり大変光栄に思っています。これまでの経験を活かし、「一期一会」を大切に、皆様と共に成長し、共に歩んでいけることを心より願っております。さらに日臨技全般的な総務関係も担当しつつ、学会のありかたの改良・生涯教育制度の改変など、新たな挑戦に55名の理事の皆様と共に取り組んでいきたいと思っています。

私は10年間、この日臨技で理事・執行理事・専務理事としてお仕事をさせていただいており、その間に多くの方々と共に協力し、成長させていただきました。今回は専務理事を再任させていただきましたので、さらなる日臨技組織の発展に向けて力を尽くしていきたいと

考えています。

このチームは素晴らしい仲間たちで溢れています。チームの皆さんと共に協力し合い、共に成長し、未来に向けて新たな道を切り拓いていけることを楽しみにしています。私自身も学びを深め、皆さんと共に成功を築いていくことに心からの意欲を抱いています。もちろんチームの皆さんとの協力のもと、「天衣無縫」なチームワークで新たな成果を築いていけることを心より楽しみにしております。

最後に、日ごろから会員の皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。臨床検査技師の素晴らしい未来を築くために、精一杯努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



専務理事 小松 京子

令和6・7年度の専務理事を拝命いたしました小松京子と申します。日臨技では理事や国際WGや編集委員などを務め、また、日臨技を代表して世界臨床検査技師会 (IFBLS) の理事として10年間、うち2年間(2012~2014)はアジア初のIFBLS会長として世界の情報を会員の皆様に提供して参りました。この度国際・出版ならびに一部の認定を担当させていただきます。出版事業に関してまは、教本の改訂や会誌の発行などがございます。会誌「医学検査」の、時代の流れに沿った形での提供方法は、会員の皆様とともにさらに踏み込んで検討する時期であろうと思います。認定事業は、それぞれ専門の委員の方々による献身的な活動により継続的改善がなされています。医療の発展の基盤となる認定事業の更なる発展に、微力ながら尽力したいと考えます。国際事業ですが、今期は2026年に開催されるIFBLS国際学会の準備がございます。そのほか、2025

年に開催されるアジア学会 (AAMLS 学会) の情報、韓国や台湾との交流の継続、米国短期留学企画の再開・学生フォーラムの継続など、会員の皆様に海外の臨床検査技師との交流の場を引き続き提供させていただきます。異文化交流は自身の視野を広げるためにも大変良い機会であると思います。会話には、カメラが搭載された自動翻訳機やスマートフォンのアプリを使用すると、音声や文字がただちに翻訳できる時代です。発表原稿や論文の翻訳サービスも多数ございます。個人の英語力を問う時代ではなくなってきております。お気軽に国際イベントにご参加ください。世界に向け日本の臨床検査技師が活躍するお手伝いをさせていただきたく思います。ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



常務理事 神山 清志

理事4期目を務めさせていただきます埼玉県の神山清志と申します。前期は執行理事として、支部並びに精度保証を担当していました。今期は、常務理事という大役を仰せつかり、支部と学会並びに精度管理を担当させていただきます。支部につきましては支部の在り方を検証しつつ、支部学会や支部研修会などの学術的な活動が更に円滑に行えるよう各支部長と連携をとっていきたくと考えます。学会は、全国学会と支部学会がありますが、各々の役割や、開催を担当する支部や都道府県との関係性について、また、現在の在り方についても検証を重ねて新しい方向性を見出していきたいと考えます。精度管理に関しましては、会員の協力の下で成長してきた重要な事業ですが、対象項目

の拡大や試料購入・作成に関して諸問題も発生してきています。また、精度管理との連結事業である品質保証施設認証についても、その在り方や運用について検証する時期となっています。

旧役員が一丸となって、新しい事業、継続事業に取り組み、大きな成果を築き上げた中で、今後は、横地会長、竹浦・西浦・山寺副会長の下で、深澤・小松専務理事、益田常務理事、宮原・直田・原田・桑原執行理事らと共に、今までの結果に満足することなく、更に会員のためになる日臨技という組織体を構築していくことが務めと考えます。皆様よろしくお願ひ申し上げます。



常務理事 益田 泰蔵

常務理事を拝命しました益田泰蔵と申します。理事として3期目で前期に引き続き常務理事を仰せつかりこれまで以上に日臨技活動に注力していく所存です。担当業務は政策渉外・精度保証となり、主に政策要望や診療報酬改定の対応、品質保証施設認証制度などに取り組んでまいります。

医療情勢が刻々と変化する中で、職能団体である当会は会員のためになるような政策要望を検討していかなければいけません。本年4月から医師の時間外労働の上限規制が始まり、よりタスク・シフト/シェアを推進していくことが求められています。更なる行政への要望や診療報酬でのインセンティブも重要と考えており引き続き検討してまいります。

品質保証施設認証制度は、新制度となり3度の審査を行ってきました。認証施設は全国で568施設になりましたが、更に受けていただくような方策を検討してまいります。

10年、20年先を見据えた職能団体としての取り組みを行ってまいります。会員一人ひとりそして未来の臨床検査・臨床検査技師のために微力ではありますが、努力してまいります。今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



執行理事 桑原 喜久男

令和6・7年度 執行理事を拝命いたしました新潟県桑原喜久男と申します。理事は3期目となり、令和4・5年度は北日本支部長を務めさせていただきました。私の担当はタスク・シフト/シェア、検体採取と臨地実習指導者講習会、加えて生涯教育事業、学術を担当いたします。タスク・シフト、検体採取の職域拡大事業につきましては修了者を増やすことに加え、事業の啓発に努め、職場での展開につなげるお手伝いをできればと考えております。臨地実習指導者講習会では現在、1,700名を超える会員が修了、学生に指導にあたっておられます。関係団体と協議しながら、教育カリキュラム等の見直しに取り組むと考えております。学術においてはWeb、現地研修会を通じて会員同

士の横の繋がりを作ることも大切であると考えております。研修会を通じて構築された関係性が次代の臨床検査技師会を支えるものであると考えております。横地会長をはじめ執行部各位、事務局、関係各位のお力を借りまして、会務を遂行する所存です。よろしくお願ひ申し上げます。



執行理事 宮原 祥子

令和6・7年度の執行理事を拝命いたしました長野県の宮原祥子と申します。日臨技理事は3期目、執行理事は2期目となります。前期は執行理事として、広報・会計・共済担当として会務にあたらせていただきました。共済に関しましては、多くの会費減免申請を受理いたしました。各地で大雨による災害に見舞われた方々、能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。広報では会報JAMTの取材や投稿、季刊誌pipetteの原稿など、多くの皆様にご協力いただき、大変充実した内容を掲載させていただくことができましたこと、心より御礼申し上げます。

今期は職能教育・人材育成を中心とした事業に携わることとなりました。横地会長の掲げられている「会

員とともに考え、会員とともに挑む」を実現するために、臨床検査技師の今後の働き方や、今後の日臨技のあり方を含め、未来を担っていただく会員の皆様とともに考えていけるような場づくりをし、心に響く明るい未来を展望できるような事業を展開していきたいと考えております。いろいろなお願いをすることとなると思います。ぜひともご協力いただきますようお願いいたします。



執行理事 原田 典明

令和6・7年度の執行理事を拝命いたしました東京都の原田典明と申します。日臨技の理事は、今季初めてでありその中で執行理事という大役を仰せつかり身が引き締まる思いです。

担当業務は、財務であります。令和5年度予算は1.5億円のマイナス予算であり、これまでコロナ禍で多くの事業が制約を受けておりましたが、新型コロナウイルスが感染症法上の5類相当となり、各種事業がコロナ禍前の執行状況に戻り、更に新たな事業も展開されていることから支出が必然と増加して行くことは致し方ないことと思います。しかしながら、会員の皆様からいただいた会費を基に事業展開を行っているこ

とから、会員の皆様に納得いただける財務でなければならないと考えます。現行の体制・制度につきましても見直しを図り削れるところは削り、費用対効果を踏まえながら財務を考えていきたいと思っております。

まだまだ日臨技の於いては駆け出しの理事でございますので諸先輩方のご指導を仰ぎながら職責を全うする所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。



執行理事 直田 健太郎

この度令和6・7年度執行理事を拝命いたしました、静岡県の直田（なおだ）健太郎と申します。これまでも、日本臨床衛生検査技師会理事として3期経験させていただきましたが、今年度「災害」「広報」「システム」の3分野を管轄する執行理事の任を初めて拝命し、益々身の引き締まる思いです。

特に担当させていただく3分野の中で「災害」については、今年初め発生してしまった能登半島地震において会員皆様の中にも被災された方が多数おられ、記憶に新しい出来事だと思います。私自身も改めて災害において臨床検査技師はどのように貢献できるかを深く考えさせられました。DMAT・JMATなど災害支援チームの中で活躍する臨床検査技師の皆様も多数いらっ

しゃると思われませんが、日臨技としては各都道府県技師会と協力し、まずは災害時指揮を執る行政及び関係各署に対し顔の見える職種となるための災害協定締結を各都道府県において推進して行きたいと考えています。

執行理事として初めての任期であり分らないことばかりですが、会員皆様のお役に立てるよう会務に向き合って参ります。ご指導ご協力の程よろしくお願いいたします。



令和6年度 日臨技有功賞・日臨技貢献賞・地域貢献賞 受賞コメント

日臨技有功賞は、当会の発展及び臨床（衛生）検査技師の地位向上のため特別な貢献をされた方に贈られます。会長賞・特別賞・功労賞の三賞があり、特別賞は臨床（衛生）検査技師以外から選出されます。

日臨技貢献賞（個人）は、都道府県技師会の会長として当会に対し多大な貢献を果たし、当会の発展に尽力された方で、表彰の前年度に都道府県技師会の会長を退任され、都道府県技師会から推薦された方に贈られます。また、日臨技貢献賞（団体）は、当会の目的及び活動意義に賛同し、当会の活動に対して多大な貢献を果たした法人又は団体に贈られます。

地域貢献賞は各支部において、長年に亘り臨床検査を通じて住民の健康保持、増進に寄与したと認められた方に対する表彰です。表彰対象者は、表彰を受ける年の4月1日の時点において永年職務精励賞受賞者で、各支部にて推薦し、表彰委員会を経て、理事会にて決定されます。

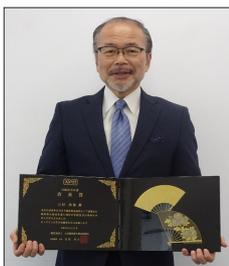
6月22日（土）に行われた令和6年度定時総会終了後に表彰式が行われましたので、受賞者の皆様からのコメント及び受賞団体を紹介いたします。

※表彰の対象者及び選考基準の詳細は当会「表彰規程」をご参照ください。

日臨技有功賞 会長賞

三村 邦裕（東京医療保健大学 医療保健学部
医療栄養学科 臨床検査学専攻長 教授）

この度は日臨技有功賞 会長賞の荣誉に浴し、心より御礼申し上げます。これも偏に宮島先生を始め日臨技の数多くの先生方のご指導の賜物と思い、重ねて感謝申し上げます。



さて、私は約45年にわたって臨床検査技師教育一筋に携わってまいりました。日本臨床衛生検査技師会にも技師教育委員会などに参加させていただき臨床検査技師教育の在り方について現場の先生方と協議させていただきました。その時代は臨床検査技師教育の創成期の時期であり、様々な問題点を抱えておりました。

今回の受賞は日本臨床衛生検査技師会と協働で行う大学院教育についてのシステムの構築にあるのではないかと思います。実現には大変な困難が立ちはだかっておりましたが、協議の際に日臨技側からは「臨床検査技師のレベルアップのためにも修士の学位を取得することに意義がある。」また「病院経営に参画できるような臨床検査技師を育成したい。」という意向がありました。私共もこのことについては大いに賛同し、紆余曲折があったものの実現することが可能となりました。

そこで、一校でも多くの大学院が臨床検査技師の質の向上のためにこの企画に参画いただければと思っております。そして優秀な臨床検査技師を輩出し、その

方々が社会で貢献されることを祈念いたしております。ありがとうございました。

日臨技有功賞 特別賞

味村 俊樹（自治医科大学 医学部 外科学講座
消化器一般移植外科学部門）

この度は、日臨技有功賞 特別賞を授与いただき、誠にありがとうございます。

私は大腸肛門外科医で、1998年にイギリスにあるSt Mark's病院に留学して以来、便失禁や便秘などの排便障害を25年近く専門にしております。今回の受賞理由であるタスク・シフト/シェア厚生労働大臣指定講習会において私が担当させていただいている直腸肛門機能検査は、その便失禁診療に不可欠な検査です。そしてタスクシフトのお陰で、2021年10月から臨床検査技師さん達が独立して本検査を実施できるようになり、大変嬉しく思っております。

私自身、タスク・シフト/シェア講習会では、これまで栃木、群馬、和歌山、高知、東京、大阪、兵庫の7都府県で計35回、講師を務めさせていただいております。またタスクシフトのお陰で、私が勤務する自治医科大学附属病院でも、臨床検査技師さん達に本検査を実施していただき、大変助かっております。

これからも臨床検査技師の皆様には、直腸肛門機能検査のみならず様々な場面でお世話になると思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



日臨技有功賞 特別賞

前田 耕太郎（医療法人社団健育会湘南慶育病院
副院長）

この度は、日臨技有功賞 特別賞を受賞させていただき、宮島喜文先生ならびに役員の方々に深く感謝申し上げます。

私は、2年前まで藤田医科大学病院（旧藤田保健衛生大学）に大腸肛門外科医として勤務しており、本会とは少なからず関係しておりました。本賞はタスク・シフト/シェア厚生労働大臣指定講習会において、直腸肛門機能検査分野のカリキュラム作成および実技講習会における貢献に対して授与されました。この領域のタスク・シフトの実技講習は、私が代表世話人をしております大腸肛門機能障害研究会の会員が分担して全国で行っております。そういう意味において、本賞は大腸肛門機能研究会の会員に対して、授与していただいたと理解しております。直腸肛門機能検査は主に便失禁の検査として行われております。未だ十分普及しているとは言えない検査ですが、全国で500万人いるとされている患者さんに貢献する重要な検査です。本講習会で多くの臨床検査技師の方々が、本疾患に関心や理解をもっていただき、「沈黙の苦悩」と呼ばれる便失禁に悩まされる患者さまの診断や治療に貢献していただければ幸甚です。



日臨技貢献賞（個人）

實原 正明（長野県）

この度は日臨技貢献賞を賜りありがとうございました。

長野県臨床検査技師会会長として携わった2期4年間は、台風19号災害、新型コロナウイルス感染症等、自然の脅威に翻弄された日々でした。そうした中でも会員のための会であることを念頭に掲げ、「全ての会員が一検査技師として輝けること」を目指し、役員および会員からの多大なるご支援・ご協力をいただきながら取り組んだ4年間でした。長野県に大きな傷跡を残した2019年台風19号災害における避難所でのDVT検診実施や、2020年の新型コロナウイルス感染症の襲来による検体採取および検査体制の整備・構築など、何れも技師会として、臨床検査技師として率先してすべきことを模索し、県行政、他団体と連携し取り組み、大きな足跡として残す



ことができました。また、災害関連においては今後懸念される自然災害にも対応すべく、県との協定締結に向け継承されています。

都道府県技師会と日臨技、それぞれの担うべき役割は異なりますが、臨床検査技師が今後もかけがえのない存在として、今以上に飛躍し輝き続ける、その志は同じと考えます。臨床検査技師の未来が希望に満ち溢れたものとなりますよう双方が協力しあい、また、その道標となるべく今後に期待します。

日臨技貢献賞（団体）

公益社団法人 滋賀県臨床検査技師会

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に対応した滋賀県臨床検査技師会に贈られました。



地域貢献賞 北日本支部

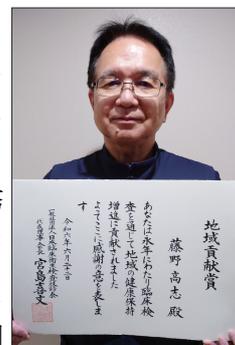
藤野 高志

この度は、地域貢献賞を賜りましたこと誠にありがとうございました。

振り返りますと、福島県の常務理事として10年間学術部門を担当し、県内会員の方々と活動してまいりました。講習会、研修会の開催支援や実務などから様々なことを学び、多くの仲間ができました。さらに、担当期間中は日本医学検査学会と2度の北日本支部医学検査学会の企画運営にも携わりました。皆様のお力添えもありすべて盛会裏に終了しました。活動を通して地域に貢献できたことと自分自身が成長できたことを大変うれしく思います。

これからも、技師会活動はもちろん、日常業務である生殖補助医療と診療所での検査を継続し、微力ながら地域の方々に貢献できればと考えております。

最後になりましたが日臨技の皆様、推薦していただきました日臨技北日本支部の皆様、そして共に活動してきた福島県臨床検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



地域貢献賞 関甲信支部

八木澤 壽

この度は地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。受賞に際し推薦いただきました皆様方に感謝申し上げます。

私は、研究班、生涯教育、組織強化活動と十数年に亘り技師会活

動に努めてまいりました。中でも研究班活動や学会運営に携わり、多くの技師と知り合い励まされたことは私の財産となっております。また、検査と健康展や地域保健事業での3歳児健診などを通じて、地域の皆様の健康に微力ながら貢献できたことが認められ、後に続く方々の励みになればと受け止めております。

これからも関連医療機関や保健所などと連携を図り、感染対策活動を通じて地域の皆様の健康に関わることができるよう努めてまいります。

最後に日臨技の皆様、関甲信支部の皆様、支えてくださった栃臨技の皆様、そして育ててくださった先輩技師の皆様へ改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



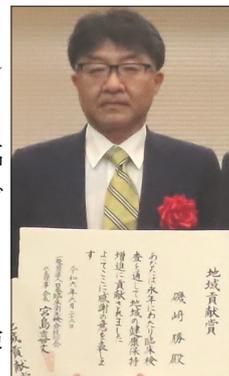
地域貢献賞 首都圏支部

磯崎 勝

この度は、地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。

ご推薦いただきました神奈川県臨床検査技師会の皆様方には、そのご支援の賜物であることを心より厚く御礼申し上げます。

平成7年から神奈川県臨床衛生検査技師会病理検査研究班に参加させていただき、病理技術の向上と統一化を目指して活動させていただきました。その間、関東甲信地区病理検査研究班合同講習会、日本臨床衛生検査技師会部門別研修会専門分野「病理」ほか、多くの研修会を横浜で開催し、全国の病理の技術者と交流できたことは大変光栄であり、その中で多くの先生方からご教示いただいた多くのことが現在のわたくしの礎となっております。また、病理技術という狭い領域で活動し、多くの志ある方々との出会いや地域活動を通じて得られた友人たちに感謝したいと思います。このたびは、誠にありがとうございました。



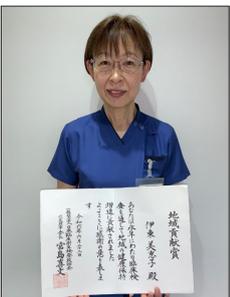
地域貢献賞 関甲信支部

伊東 美恵子

この度は、地域貢献賞を賜り誠にありがとうございます。また、推薦いただきました長野県臨床検査技師会の皆様方に感謝申し上げます。

私は、微生物・一般・神経生理の検査に携わる一方で、病院が行う地域住民の巡回健診に参加し、糖尿病療養指導士としても15年間患者支援を行いました。これらを通して、生活背景を含め総合的に結果を判断し個々の状況に応じた支援が重要であることを学びました。この経験はその後の健康管理課長の職でも大いに活かすことができました。多くのスタッフの協力を得ながらではありますが「ドック健診センター」を運営する中で、地域に根ざした健診事業が提供できているか常に自問してきました。

地域貢献賞の表彰基準を拝見し、これまでの取り組みは間違っていなかった、この受賞は大変名誉なことであると、あらためて感慨深く受け止めております。誠にありがとうございました。



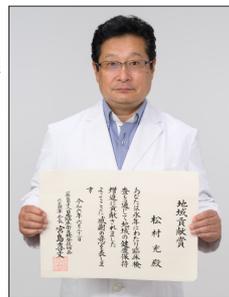
地域貢献賞 首都圏支部

松村 充

日本臨床衛生検査技師会より地域貢献賞を受賞し、大変光栄に思っています。この受賞は、私自身の努力だけでなく、チーム全員の協力と地域の皆様の支援があってこそのものであります。私たちの目標は常に、地域社会に貢献し、健康増進に寄与することでした。

具体的な取り組みとして、厚生労働省指定の検体採取講習会を企画・運営し、地域の医療従事者に最新の技術と知識を提供してきました。特に新型コロナウイルスの流行時には、臨床検査技師の業務拡大に寄与し、その重要性を実感しました。また、地域保健共催部事業として、検査と健康展、学生対象の講演会を通じて、一般市民や学生に健康意識を啓発する機会を提供しました。

現在は大学教育に携わっており、地域貢献や皆様の健康と福祉に寄与できる臨床検査技師の育成に尽力しています。今後も更なる努力を惜しまず、地域社会との連携を深め、健康増進に貢献していく覚悟です。この受賞に携わったすべての方々へ心から感謝申し上げます。



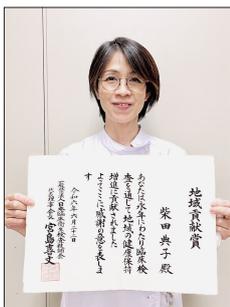
地域貢献賞 中部圏支部

柴田 典子

この度は、地域貢献賞を賜り、誠にありがとうございます。

学術活動のご縁で、平成28年度中部圏支部遺伝子染色体検査部門研修会の開催に関わり、その後、平成29年度中部圏支部医学検査学会では学会事務局を、愛知県臨床検査技師会では庶務部門を担当してまいりました。その間、様々な経験をさせていただき、多くの方と出会い、助けていただきながら共に楽しく活動できたことは私にとって大きな財産となっております。今後はこれまでの経験を後進に伝えながら自身もさらに精進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、今回の受賞にあたり推薦の労をお取りいただきました日臨技、中部圏支部の方々、そして一緒に活動していただいた愛知県臨床検査技師会の皆様、活動に理解をいただきました職場の皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



地域貢献賞 近畿支部

大林 準

この度は、地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。

臨床検査技師会の会員として気がつけば40年経ちました。幸いパソコンを少し触れるので、奈良県臨床検査技師会の皆様のために何かできないかと思い、ホームページ準備委員会を立ち上げ、2001年にホームページを開設いたしました。一般の方への広報ももちろんですが、第一に技師会会員の皆様に役立つホームページを目指しております。

COVID-19が流行し、対面での研修会が開催しづらくなった時期には、オンライン研修会の要望が高まり、IT委員会として学術部門委員会の方と協力し、Zoomウェビナー等を利用した研修会を開始いたしました。その後、オンラインにて奈良県医学検査学会も開催できました。今後は、対面とオンラインのそれぞれのメリット・デメリットにより使い分けてくださればよいなどと思っております。

私自身の臨床検査技師としての期間はあと少しですが、これからも、大好きな奈良県臨床検査技師会会員の皆様に応援し続けたいと思います。

ご推薦いただきました日本臨床衛生検査技師会近畿支部の皆様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



地域貢献賞 近畿支部

丸岡 康子

この度は、地域貢献賞を賜りましてありがとうございます。受賞に際し推薦いただきました兵庫県臨床検査技師会をはじめ、皆様に心より感謝申し上げます。

これまで、西宮市医師会診療所の臨床検査部に勤務し地域の行政健診（検診）や学童検診などに従事してまいりました。行政と共同で検診事業の精度管理や受診率の向上に向けた活動に加え、新型コロナウイルス感染拡大時には、PCRセンターの運営や学校、介護施設、障害者施設などの検査を昼夜問わず対応しました。また、兵庫県医師会が主導となって行っている衛生検査所の精度管理事業に携わり検査法の標準化活動に取り組んでまいりました。

さらに、検査の方法以外に検査データの標準化に関する実証研究事業にも参画し、地域医療で活用される基礎的な分野に貢献できたことは光栄なことだと思っています。このような活動に携われたのも、周りの方々のご理解と協力があったからと深く感謝申し上げます。

最後に、日本臨床衛生検査技師会の益々のご発展を祈念いたします。ありがとうございました。



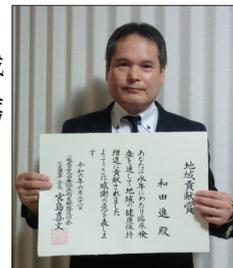
地域貢献賞 中四国支部

和田 進

この度は、地域貢献賞を賜り誠にありがとうございます。ご推薦いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

島根県臨床検査技師会の活動として、一般検査・病理検査の精度管理や、関係団体の協力のもと各地域の健康展や健康フェスティバル、がん予防啓発の企画・運営に携わらせていただき、多少なりとも地域の皆様の疾病予防にお役立てたのではないかと感じております。

また、学術方面では西部地区を盛り上げようと同じ考えの仲間が集まり、初心者用の西部地区学術発表会を立ち上げて開催を継続し、現在の島根県医学検査学会に発展したことは、印象深く心に残っています。今回の受賞は、一緒に活動していただいた島根県臨床



検査技師会皆様のおかげと心より感謝申し上げますとともに、日本臨床衛生検査技師会の益々のご発展を祈念し、受賞の御礼といたします。ありがとうございました。

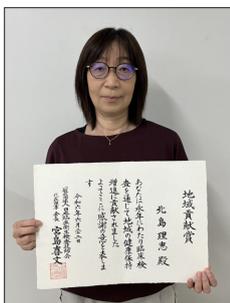
地域貢献賞 九州支部

北島 理恵

この度は、地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございました。

臨床検査技師養成学校卒業後、昭和62年に細胞検査士の資格を取得し、佐賀県の保健行政を補完する団体として佐賀県住民の健康診断や子宮がん検診で疾病の診断に関わる業務に携わってまいりました。

また、平成29年に他施設との統合により組織体制が



更に強化され、これまで以上に健診、検査、啓発活動を拡充し、県民の疾病予防、健康増進、健康寿命の延伸や、公衆衛生の向上、医療従事者の資質向上等に、微力ながら関わることができたことは大変幸いなことでした。

商業施設での「検査と健康展」「ピンクリボンキャンペーン」「LOVE子宮」などの街頭キャンペーンに参加できたことは良い思い出となっています。

今回の受賞にあたり、推薦いただきました佐賀県臨床検査技師会役員の方々、職場の上司・同僚、関係各位に、心より感謝を申し上げます。

都道府県技師会 各地での取り組み(宮城県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、近年頻発している災害に備え宮城県と協定を締結した宮城県臨床検査技師会の取り組みについて紹介いたします。

災害支援活動に関する宮城県臨床検査技師会と宮城県との協定締結

一般社団法人 宮城県臨床検査技師会
事務局長 宮坂 智充

一般社団法人宮城県臨床検査技師会（以下、宮城県臨床検査技師会）は、災害対策基本法（昭和36年法律第233号）で定める宮城県地域防災計画に基づき災害時に宮城県が行う医療救護活動等に対して協力することを目的として、「災害時における災害支援活動に関する協定書」を宮城県と締結しました。

具体的には、発災時に宮城県災害対策本部（本部長：知事）のもと保健医療福祉活動の総合調整を担う保健医療福祉調整本部（本部長：保健福祉部長）内に設置される医療救護班の一員として、(1)病院検査室への診療支援；(2)被災者避難所での支援活動；(3)検査機器、検査試薬等の供給支援を主な柱として災害支援活動業務を実施して参ります。

今回の協定締結を踏まえ、宮城県からの支援要請に対して迅速かつ効率的な対応がとれるよう、今後、宮城県臨床検査技師会における災害支援活動の基盤強化

を目的として、宮城県臨床検査技師会災害対策マニュアルを改訂し組織内体制を強化する予定です。加えて、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会との連絡体制の強化、宮城県医薬品卸組合との協定締結、ならびに宮城県薬剤師会はじめ他の県内医療関係団体との連携強化を視野にいたした災害支援体制を構築していく予定です。

今回の協定締結にあたっては、宮城県臨床検査技師会前会長の藤巻慎一会員、宮城県保健福祉部医療政策課、ならびに宮城県議会議員石川光次郎先生より多大なご支援とご協力を賜りました。ここに関係各位に厚く御礼を申し上げます。

会報JAMTでは、都道府県技師会の取り組みや、地域での活動も紹介しています。

是非、都道府県技師会の活動にもご注目ください。



当会では国民の皆様にも臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2024 春号 (vol.43) にも読後感想として、たくさんの感想や応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。



- 臨床検査技師の方に「寒くない？痛くないですか？」と、とても優しく声をかけていただき、緊張して体がこわばっていましたが、最後にはリラックスして検査を受けることができました。本当に感謝しています。(群馬県・女性)
- 検査が続き「俎板の鯉」状態でしたが、臨床検査技師のつぶやきを目にし、安心して任せられる人達だと気づき、治療をがんばろうと思いました。(愛媛県・男性)
- 病院ではいろいろな検査を受けますが、「何のために?」「どうして?」と不安になりがちです。検査についてわかりやすく説明が載っていて、よかったです。(神奈川県・女性)
- いつも受けている検査の説明が載っていて、目的や手順が理解できて安心した。(山口県・女性)
- エコー検査・血液検査・尿検査くらいしか知らなかったけれど、表紙の「術中神経モニタリングする臨床検査技師」に、こういうお仕事もされているのかと見入りました。(岡山県・女性)
- 病院で働いていたころ、臨床検査技師のエコーや運動負荷検査等の機械の扱いがハイレベルで感心していました。病気発見・経過観察には欠かせない職業です。(愛知県・女性)
- 視野の広い内容でびっくりしました。臨床検査技師の方々の関心の広さを示すものと思います。(東京都・男性)

『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。

過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

<https://www.jamt.or.jp/books/pipette/>

Fax: 03-3768-6722

mail: pipette@jamt.or.jp



〔編集後記〕7月18日に関東甲信地方は例年より2日早く梅雨が明けました。毎年の猛暑に心も体もついていくのが精一杯ですが、仕事終わりのビール的美味しさを思い浮かべながら日々のお仕事に弾みをつけているところです。7月27日に開催された第3回理事会では今年度の理事会やワーキングのメンバーを決定させていただきました。決定した委員会やワーキングによって、これから様々な改革がなされようとしております。行われる改革に関しては逐次、会員の皆様には適切な情報提供を惜しみなく行い、皆様からご指示をいただける執行部の姿を示す予定ですので、ご理解そしてご助言を賜りたく存じます。よろしく願いいたします。(深澤)